

☆制度のはざま、医療的ケア児 取り残され孤立

本郷朋博（1） ウイングス医療的ケア児などの
がんばる子どもと家族を支える会代表
日本経済新聞 [2021年7月11日](#)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA21C9E0R20C21A6000000/>

> 医療的ケア児という言葉を知っているだろうか。日常的にたん吸引や人工呼吸器などのケアが必要な子が国内に推計2万人以上いる。10年前の倍に増えた。原因は先天的な病気から後天的な病気、事故まで様々だが、医療技術が発展し、これまで助からなかった子が助かるようになったことが大きい。その進歩に社会が追いついていない。動き回れる子や寝たきりの子、知的機能に問題ない子から遅れのある子までいる。

…などと伝えています。 [その紙面](#)

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20210711nikkei.pdf>

☆ケア児の親、働くことはエゴなのか 就労と両立困難

本郷朋博（2） ウイングス医療的ケア児などの
がんばる子どもと家族を支える会代表
日本経済新聞 [2021年7月18日](#)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA21CAL0R20C21A6000000/>

> 「市内のすべての保育園に断られた」「特別支援学校に常時付き添いを求められている」。医療的ケア児の家族から寄せられる相談の中でも、未就学児の預け先が少ないこと、学校の送迎と付き添いを巡る問題は多い。厚生労働省の2019年の調査で、急病などの際、預け先がないとの回答が8割を超えた。文部科学省の18年の調査では特別支援学校で常時付き添いを求められる割合は8%、登下校の付き添いは60%に上った。ケアは日常的な介助行為として本人や家族が行うが、本来は医療行為で医療従事者のみができる。高齢者に対しては2012年の法改正で研修を受けた介護士等もできるようになったが、子の場合、多くを親が担う。しわ寄せは主に母親にかかる。

…などと伝えています。 [その紙面](#)

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20210718nikkei02.pdf>

☆成長の可能性、無限大 包摂教育の拡充を

本郷朋博（3） ウイングス医療的ケア児などの
がんばる子どもと家族を支える会代表
日本経済新聞 [2021年7月25日](#)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA21CC00R20C21A6000000/>

> 医療的ケア児が保育園などに通えないと、家族以外の大人や同年代と触れる機会が減り、刺激が少なくなる。知的障害がなくても発達が遅れかねない。社会性を育む機会が失われる。人工呼吸器などのケアを理由に特別支援学校にも通えない場合、教員が出向く訪問教育を選択する。週に3回、1回2時間ほどの授業では、特に知的障害がない子には到底足りない。

…などと伝えています。 [その紙面](#)

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/nikkei20210725.pdf>

☆「不幸じゃなく不便」 ケア児支援で豊かな社会を

本郷朋博（4） ウイングス医療的ケア児などの

がんばる子どもと家族を支える会代表

日本経済新聞 [2021年8月1日](#)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA303FC0Q1A630C2000000/>

> 医療的ケア児支援法で行政による支援は責務に格上げされた。支援拡充が期待されるが問題はすぐには解決しない。この法律は理念法だ。具体策を担う自治体の多くは医療的ケア児の人数もニーズも正確に把握できていない。当事者の声に基づかないと、使いづらいサービスや形だけのハコモノができかねない。我々は全国で家族会づくりを支援し、ネットワーク化を進めている。

…などと伝えています。 その[紙面](#)

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20210801nikiei01.pdf>